



3号機も冷却不全

東日本大震災 福島第一原発



福島第一原子力発電所 12日午前9時28分、福島県大熊町、本社ヘリから、山本裕之撮影

東日本大震災で被害を受けた東京電力福島第一原子力発電所3号機で13日朝、大量の放射能漏れを防ぐため、1号機に続き、原子炉の格納容器から微量の放射性物質を含む蒸気を放出する弁が開けられた。枝野官房長官は、原子炉内で燃料が溶ける炉心溶融が起きた可能性に言及した。一方、東電は同原発の敷地境界で安全上の制限値を超える放射線量を観測、原子力災害特措法に基づく緊急事態にあたるとして経産省に報告した。

経済産業省原子力安全・保安院は13日朝、東京電力福島第一原発の3号機で同日午前5時10分、原子炉を冷やす給水のしくみがすべて止まった、と東電から通報を受けたと発表

した。原子炉の格納容器内の圧力が上がって損傷するのを防ぐため、午前9時20分、微量の放射性物質を含んだ蒸気を大気中に放出する弁を開放したという。

東電によると、現在、高さ120mの排気塔を通じ、微量の放射性物質を含んだ蒸気を大気中に出しているとみられる。蒸気を出して格納容器の圧力を下げて安全性を確保する間に、原子炉を冷やすしくみの復旧を急ぐという。

水位が低下して燃料が水面に露出し、炉心溶融が起きた可能性がある。枝野氏は「炉心溶融が起きていることを前提に対処している」と述べた。